

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2092600036		
法人名	有限会社 幸楽		
事業所名	グループホーム 幸楽		
所在地	長野県木曾郡木曾町日義4905		
自己評価作成日	令和2年11月20日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_022_kni=true&JigyosyoCd=2092600036-00&ServiceCd=320&Type=searchl
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所		
所在地	長野県飯田市東中央通5-59-1		
訪問調査日	令和2年12月16日		

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

御岳山と駒ヶ岳を一望することができ、季節の移り変わりを肌で感じながら、18名の利用者様が健やかにその人らしい個性を発揮できるように支援しています。そして、利用者様の思いを尊重しながら、日常生活の中で、歌や塗り絵、クイズ、パズル、折り紙などのレクレーションを行い、ボランティアさんと交流する中で五感を発揮し、認知症が進行しないように努めています。職員は笑顔を大切に、穏やかに、利用者様と寄り添いながら、生き生きとした生活を送っています。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

新型コロナウイルスの影響で、令和2年12月16日のグループホーム「幸楽」の訪問調査は感染防止のための対策をとり、実施してきた。特に、外部からの感染を防ぐため、グループホームの利用者との会食などの接触を避け、職員との対話も短時間で休憩・換気を行い、何回も分けて実施した。グループホーム「幸楽」のコロナ対策は、体温測定・マスク着用・手指消毒と面会記録簿記入と徹底しており、職員にも徹底していた。いろいろな行事や地域との交流、外出等が延期や中止、制限される中で、対応を工夫している。空気清浄機や加湿器、アクリル板設置などのハード面の充実ばかりでなく、オンライン面会を行おうとしていることなどが素晴らしい。これは、管理者を中心に、ユニットリーダーや職員が協力して「幸楽」盛り上げてきているからだと思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(1F)		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	①ほぼ全ての家族と
			②利用者の2/3くらいの			○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	③利用者の1/3くらいの	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない			○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①毎日ある	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度ある			○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	③たまにある	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	③たまに
			④ほとんどない			○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	③利用者の1/3くらいが	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	③職員が1/3くらいが
			④ほとんどいない			○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が			①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが			○
			③利用者の1/3くらいが			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどいない			④ほとんどできていない

ユニット名(2F)							
項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

(別紙)

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員と理念を共有し、業務にかかわることができるように職員会議等で周知徹底しています。	「個人の思いを尊重し、それぞれに適した自立を支援します」という理念を大切に、利用者の状況を把握するための「ひもときシート」を活用したり、利用者のアンケートをとったりして、会食を楽しんでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で難しくなっています。	一昨年の10月ごろまでは、これまでの繋がりからボランティアの活動などは実施できたが、新型コロナウイルスの感染状況により、外出や交流などが制限されたり、自粛したりして困難な状況になっている。しかし、地域の組長を担っている職員から、地域の情報を得ながら対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度行われた中学生の福祉体験は、認知症の理解に力を入れ、利用者様と触れ合い、深めてきました。今年は新型コロナウイルス感染の影響で中止になってしまいました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在中止していますが、新型コロナウイルスが流行るまでは、2か月に一度開催し、参加の皆様による助言等を参考にさせていただいていました。	昨年度は、5回目までの運営推進会議を開催することができたが、本年度は中止になっている。話し合いの資料を作り、保管している。運営推進会議のメンバーには、連絡をとり、いつでも再開できるように準備をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に介護保険認定更新の調書や介護度更新等では連携し、意見書の提出等協力関係を築いています。新型コロナウイルスの状況・対処方法の資料も共有し、対策を練っています。	新型コロナウイルスの感染拡大以降、絶えず町の担当者から国や県からの情報配信、指示などを受け、連携を密接にしながらグループホームでの対応、対策を練ってきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で話し合い、職員全員が理解できるよう周知徹底を行い、身体拘束について深く学んでいます。	運営推進会議が開かれていた時には、職員会議で話し合われた具体例などを報告していた。昨年は1Fでは、ベッドからの転倒防止の4点柵の使用があったが、本年度は解消している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や研修会で虐待についてを理解し、職員同士でも常に指摘し合うように努めています。過剰なボディータッチや強引な行動に注意を払い、職員全員で気を付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修会に参加して知識として持っています。しかし、実践に結び付くケースが少ないため、必要に応じて活用していくようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族様に不安がないよう疑問点を把握し、わかりやすく説明して理解を得るように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族様の面会時に意見を聞き入れ、管理者に報告しています。管理者は職員間で共有できるように努め、運営の向上に向け反映するようにしています。	これまで職員が利用者家族との面会時に、意見や要望を聞き入れてきたが、新型コロナウイルスの感染予防の対策のため面会が制限され、家族からの意見や要望を聞き入れる機会が少なくなっている。そこで、オンライン面会を計画している。また、利用者からの意見や要望は、アンケートを通して食事の希望などを聞き入れて、実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はユニットリーダーへ、ユニットリーダーから管理者へ、管理者から社長へといった形で順次検討・反映できるようになっています。	職員からの個別の意見や要望などは、ユニットリーダーと管理者のリーダー会議で採り上げ、反映できるようにしている。また、職員会議では、行事やケア、研修などの議題が活発に話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長と常に連携をとり、職員の就業状況や前向きな姿勢を把握しています。職員各自が仕事にやりがいのある職場の環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成では、職員同士で協力し合い、しっかり指導し、理解できるまで補助をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で難しくなっています。電話やメールにて情報を共有し、サービスの質の向上に活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様個人の思いや意見を尊重し、安心して生活できるような支援に努めています。傾聴、受容、共有を大切に、しっかり行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の希望に耳を傾け、対応しています。安心してグループホームとの関係が維持できるよう努めています。家族様の悩みや相談を受け、共有して取り組むようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や家族様の話に耳を傾け、希望を把握し、それに対する的確な支援が行えるように努めています。体調の悪い方や他の施設に入所希望の方、退所希望の方の受け入れにも配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者様の立場に立ち、その思いを尊重し、思いやりの心で支援するよう努めています。利用者様のできること、していただけることを把握して、自信につなげるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の相談や月に一度の生活状況のお便りにより、利用者の状況を知らせています。面会はコロナの影響もあり、管理者の裁量により、判断しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の思いに沿い、これまで面会していただいていた。しかし、新型コロナウイルスの感染を防ぐため、面会者にはマスク・手洗・消毒・検温をしていただいています。そして、アクリルパーテーション越しに会っていただいております。面会方法もオンライン面会を取り入れました。	新型コロナウイルスの感染の影響で、外出する機会が減りました。また、面会に見える方も減りました。家族との面会のみでの制限して、検温を行い、マスクを着用して手指の消毒をして、アクリルのパーテーション越しで行ってもらっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が利用者様を見守り、間に入ったりして支援しています。職員も利用者様の好みを理解し、利用者様皆で楽しめる話題作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族様の生活相談や今後の支援等相談を受けたり、その後の家族様の健康状態、安否確認をしています。時には訪問することもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの思いや希望を把握し、安心していただけるケアに努めています。前向きで希望の持てる言動を心掛けています。	利用者一人ひとりの思いや希望は、アンケートを実施したり、職員間の「連絡ノート」に書かれた気づきをもとに把握し、「アセスメントシート」にまとめている。自分で意向などを表現することが困難な場合は、これまでの経緯や周りの状況などから考えて判断するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様と話し、好みを理解して、なじみの話や環境で生活できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの「ケア日誌」により、全職員が把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにて、ケアの在り方について再認識し、個別ケア計画を中心に、「ひもときシート」を活用してその場に応じた計画作成に努めています。	1Fは、ケアマネージャーを中心に、介護計画を作成している。いろいろな課題を抱えている利用者については、「ひもときシート」を活用して、利用者本人に応じた介護計画になるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケア日誌」をもとに職員会議で意見交換し、日々の生活の様子を把握して、モニタリングをし、実践に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様と家族様のニーズを確認し、できる限り対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々の協力を得ながら、日々豊かで安全な生活を楽しんでいます。また、野菜を届けていただき、おいしい食事提供もできています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の病院の先生の往診時や緊急時の対応には常に主治医や家族様と連携し、状況確認をしています。異常の早期発見に努め、健康で生活できるように対応しています。	毎日の健康観察や人との接触に気を付けている。、新型コロナウイルスの感染が拡大している中、ますますかかりつけ医や訪問看護師からの情報や指導・指示が大事になってきている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に四回、訪問看護ステーションから往診に来ていただいています。往診時以外でも日常の関わりの中でとらえた情報や気づきは常に看護師に報告し、適切な指示のもとに対応しています。看護師の指示のもと、臨機応変に行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や家族様との連携を密にし、職員間でも早い段階から情報を共有し、取り組む体制ができています。搬送、受診、入院、退院等、医療機関と連携し早期に対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に家族様と医療関係者との連携を密にし、情報交換をしながら安心して療養できる支援を行っています。マニュアルを作成し、病状に合った支援を行っています。	家族とかかりつけ医・訪問看護師との連携を密にしている。重度化や終末期に向けて、マニュアルを用意して、看取りなども行うことができるようになってきている。最近、グループホームから病院へ入院し、看取った事例があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力のもと、訓練や研修の場で学び、取り組む体制ができています。救命のため訓練で実践力を養っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町や消防署の協力体制のもと、定期的な訓練を行い、全職員が学んでいます。水、食糧などを備蓄し、持ち出し品の整備を行っています。利用者様の安全確保や避難など訓練やシミュレーションを行い有事に備えています。	消防署と協力して定期的な訓練を計画しているが、新型コロナウイルスの影響で、延期や中止になっている。その中でも、いつ災害が起きても対応できるように準備を怠らないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や研修会等により、職員全員が理解しています。尊厳を守り、心身ともに苦痛を与えないように研鑽し、モラルのある行動をとっています。職員が利用者様と同じステージに関わることがたいせつであると考えています。	介護される利用者、介護する職員が同じ家族の一員として、対等であるという考えで、関わっていくように努めている。そのことが、利用者の尊厳やプライバシーを守るのだという意識の基になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張できる利用者様には一人ひとり傾聴し、意思決定が困難な利用者様には常に行動を見守りながら臨機応変に対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者様優先という気持ちを全職員が持ち、支援しています。職員都合のケアはしないように意識を共有しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様がその人らしく生活できるように常に関わり、臨機応変に対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様その人の食生活を把握し、楽しく、おいしく、良い雰囲気ですぐに食事が摂れるようにしています。支度や片付けに関しても利用者様と一緒にしています。	日常生活の中の会話などでさりげなく利用者の嗜好を聞いたりして、その違いを生かしたメニューや調理方法をしているので、楽しく会食することができている。訪問当日は、一緒に会食できなかったが、温かな雰囲気を感じた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食習慣を把握し、常に栄養価を考え、バランスのよい食事が摂れ、体力維持ができるように支援しています。味付けも考慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎日、介助が必要な方に対しては職員が対応して清潔に保つようになっています。食後の歯磨き、乾燥を必ず行い、すっきりとした生活が維持できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄パターンを把握し、促しにより自立に向けた支援を行っています。紙パンツ、パットなど極力使用しない方向で介助しています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけてトイレ誘導をしている。このような自立支援を通して、紙パンツやパットなどの使用を抑え、気持ちの良い生活が送れるようにしえんしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課の中で適度な運動や散歩をし、必要とされる水分を摂取するように支援を行っています。医師の指示で時には便秘薬も使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のニーズに合わせ、決して強要することなく、その日の体調に合わせて対応しています。入浴後にバイタルの計測と水分補給を行っています。	1週間に3日ほど、利用者の希望により、入浴を楽しんでいます。車椅子を利用している利用者が多くなり、補助したり、見守ったりしている。入浴後の体調管理に十分気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの睡眠時間を尊重し、体調に差し支えないように支援しています。居室での昼寝の時間も取っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「お薬説明書」という冊子を作り、全職員が見れるようにし、学んでいます。誤薬がないよう注意し、服薬を行うようにしています。利用者様が飲み込むまで見届けるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割やレクリエーション、散歩などで一人ひとりが楽しく、また、気分転換できるように支援しています。適度の疲労感を持っていたき、夜間の睡眠につながるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で難しくなっていますが、利用者様の希望に沿い、玄関先のベンチで日向ぼっこをしながら好きな飲み物を飲んでいただくように支援しています。	新型コロナウイルスの感染の影響で、以前に比べて遠出する機会が減っている。玄関のベンチで日光浴を楽しんだり、裏の畑に出て散歩するようにしている。2Fでは、廊下からエレベーターホールまでの間を往復行き来し、窓から外の景色を見て散歩するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ全員がお金の管理ができないため、所持していません。本人の希望があれば家族様の承諾を得て立替えて、購入している利用者様もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては必要なものを提供し、支援しています。電話は家族様と連携し、都合の良い時間を相談しながらかけることができます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔に保ち、居心地の良い空間になっています。電灯の交換、清掃などをこまめに行い、清潔な空間となるように気配りをしています。	新型コロナウイルスの感染防止の対策として、空気清浄器や加湿器を新しく設置した。また、食事をするときのためにテーブルにアクリル板を置いたり、面会するときのためにもアクリル板を通して会話できるようにしたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様個々に居場所があり、思い思いにゆったり生活できるようになっています、利用者様が自分の思いに浸って過ごすように職員はそっと見守っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談し、できる限り使い慣れたもので環境を整え、安心して生活できるようにしています。	使い慣れた家具を持ち込んでいる他に、グループホームから貸し出している家具や器具が多くある。ベッドや椅子、衣装ダンス、車椅子や歩行器など、利用者にとって随分助かる物ばかりである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの日常生活を把握し、職員間で周知し、安心、安全で自立した生活を送れるよう工夫しています。利用者様の動線の安全面を考慮し、自由に歩行できるようになっています。		

(別紙)

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を共有し、業務にかかわることができるように職員会議等で周知徹底しています。	「個人の思いを尊重し、それぞれに適した自立を支援します」という理念を大切に、利用者の状況を把握するための「ひもときシート」を活用したり、利用者のアンケートをとって会食を楽しんだりしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で難しくなっています。	一昨年の10月ごろまでは、これまでの繋がりからボランティアの活動などは実施できたが、新型コロナウイルスの感染状況により、外出や交流などが制限されたり、自粛したりして困難な状況になっている。しかし、地域の組長を担っている職員から、地域の情報を得ながら対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度は中学生の福祉体験学習を受け入れ、利用者様と触れ合い、コミュニケーションや認知症など、高齢者支援の把握と理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営委員会の開催を計画し、報告すべきことは怠ることなく、改善すべきことは真摯に受け止め、サービス向上のためのアドバイスを受けています。	昨年度は、5回目までの運営推進会議を開催することができたが、本年度は中止になっている。話し合いの資料を作り、保管している。運営推進会議のメンバーには、連絡をとり、いつでも再開できるように準備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に介護保険認定更新の調書や介護度更新等を連携し、意見書の提出等協力関係を築いています。	新型コロナウイルスの感染拡大以降、絶えず町の担当者からの国や県からの情報の配信、指示などを受け、連携を密接にしながらグループホームでの対応、対策を練ってきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で話し合い、職員全員の理解や周知を行い、身体拘束について深く学んでいます。	運営推進会議が開かれていた時には、職員会議で話し合われた具体例などを報告していた。昨年は2Fでは、かかりつけ医の指示で拘束衣の使用があったが、本年度は解消している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や研修会で虐待について理解し、職員同士でも常に指摘し合うように努めています。過剰なボディータッチや強引な行動に注意を払い、皆で気をつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修会に参加して、知識としては知っているが、実践に結び付くケースが少ないため、必要に応じて活用していくようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族様に不安がないように疑問点を把握し、わかりやすく説明して理解を得るようよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の面会時に意見を聞き入れ、管理者に報告し、職員間で共有して運営の向上に向け反映しています。	これまで職員が利用者家族との面会時に、意見や要望を聞き入れてきたが、新型コロナウイルスの感染予防の対策のため面会が制限され、家族からの意見や要望を聞き入れる機会が少なくなっている。そこで、オンライン面会を計画している。また、利用者からの意見や要望は、アンケートを通して食事の希望などを聞き入れて、実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は各ユニットリーダーへ、そして管理者へ、それから社長へといった形で順次検討され、反映できるようになっています。	職員からの個別の意見や要望などは、ユニットリーダーと管理者のリーダー会議で採り上げ、反映できるようにしている。また、職員会議では、行事やケア、研修などの議題が活発に話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長と常に連携をとり、就業状況や前向きな姿勢を把握し、職員それぞれにとって仕事にやりがいのある職場の環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成については、他の職員と一緒に協力して指導し、しっかり理解できるまで見守っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな研修会や会議の場で他のグループホームとの交流を行い、情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様個人の思い、意見を尊重し、安心していただけるように支援しています。そのために、傾聴、受容、共有をしっかりと行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の希望に耳を傾け、対応しています。そして、安心してグループホームとの関係が維持できるように努めています。家族様の悩みや相談を受け、共有することが大事だと考えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や家族様の話に耳を傾け、希望を把握し、それに対して的確な支援が行えるよう努めています。体調の悪い方や他の施設に入所希望の方、退所希望の方などの受け入れについて十分配慮させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者様の立場に立ち、その思いを尊重し、思いやりの心で支援するように努めています。利用者様のできること、していただけることを把握し、その人の自信につなげるような支援を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の相談や月に一度の生活状況のお便りを大切にしています。特に、面会時の場の設定、雰囲気づくりを配慮して、和やかに面談できるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は特に制限することなく、家族様の思いに沿って場所や時間等を設定し、面会するようにしています。現在は新型コロナウイルスの感染を防ぐため一定のルールの下行っています。	新型コロナウイルスの感染の影響で、外出する機会が減ったりしました。また、面会も家族との面会に制限し、検温を行い、マスクを着用し、手指の消毒をして、アクリル板越しで行ってもらってる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が見守り、間に入ったりして支援しています。互いに個性を出しすぎて、強い言葉などで張り合うこともあるため、中立的な態度で穏やかにアドバイスをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、家族様への生活やその後の支援等の相談を受けたり、健康状態や安否確認をしたりするために、随時、訪問しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの思いや希望を把握し、安心していただけるケアに努めています。前向きで、希望の持てる言動を心掛けています。	利用者一人ひとりの思いや希望は、アンケートを実施したり、職員間の「連絡ノート」に書かれた気づきをもとに把握し、「アセスメントシート」にまとめている。自分で意向などを表現することが困難な場合は、これまでの経緯や周りの状況などから考えて判断するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様と話をし、好みを理解したり、なじみの生活を聞いたりして、グループホームでの環境に適応できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの「ケア日誌」により、全職員が現状を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにて、ケアの在り方について再認識し、また、個別の介護計画を中心に、「ひもときシート」を活用して、利用者様の状態に応じた計画作成に努めています。	2Fは、計画作成者を中心に、介護計画を作成している。いろいろな課題を抱えている利用者については、「ひもときシート」を活用して、利用者本人に応じた介護計画になるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「ケア日誌」をもとに職員会議で意見交換し、日々の生活の様子を把握して、モニタリングをして、実践に繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様と家族様のニーズを確認し、できる限り対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは地域のボランティアの方々の協力を得ながら、日々豊かで安全な生活を楽しんでいます。また、地域の方々から野菜を届けていただき、おいしい食事提供もできています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診時や緊急時の対応には、常に主治医や家族様と連携し、状況確認ができようとしています。異常の早期発見に努め、健康で生活できるように対応しています。	毎日の健康観察や人との接触に気を付けている。新型コロナウイルスの感染が拡大している中、ますますかかりつけ医や訪問看護師からの情報や指導・指示が大事になってきている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきは常に看護師に報告し、適切な指示のもとに対応しています。看護師の指示のもと、バイタルチェックや処置等を臨機応変に行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や家族様との連携を密にし、職員間でも早い段階から情報を共有し、取り組む体制ができています。搬送、受診、入院、退院等は医療機関と連携し、早期に対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に家族様、医療関係者との連携を密にし、情報交換をしながら安心して療養できる支援を行っています。マニュアルを作成し、救急対応や心臓マッサージなど病状に合った支援を行っています。	家族とかかりつけ医・訪問看護師との連携を密にしている。重度化や終末期に向けて、マニュアルを用意して、看取りなども行うことができるようになってきている。最近、グループホームから病院へ入院し、看取った事例があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力のもと、訓練や研修の場で学び、取り組む体制ができています。救命のため訓練を行い、実践力を養っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練により全職員が学んでいます。町役場や消防署の協力体制ができています。水、食糧などを備蓄し、持ち出し品を整備しています。利用者様の安全確保のため、避難訓練やそのシミュレーションを行い、有事に備えています。	消防署と協力して定期的な訓練を計画しているが、新型コロナウイルスの影響で、延期や中止になっている。その中でも、いつ災害が起きても対応できるように準備を怠らないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や研修会等により、職員全員が理解しています。利用者様の尊厳を守り、心身ともに苦痛を与えないよう研鑽し、モラルのある行動をとっています。職員が同じステージに関わることが大切だと考えています。	介護される利用者、介護する職員が同じ家族の一員として、対等であるという考えで、関わっていくように努めている。そのことが、利用者の尊厳やプライバシーを守るのだという意識の基になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張できる利用者様には一人ひとり傾聴するようし、意思決定が困難な利用者様には常に行動を見守りながら臨機応変に対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者様優先という気持ちを全職員が持ち、支援しています。職員都合のケアはしないよう共有し、実践しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様とその人らしく生活できるよう常にに関わり、臨機応変に対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食生活を把握し、楽しく、おいしく、よい雰囲気ですぐに食事が摂れるように対応しています。	日常生活の中の会話などでさりげなく利用者の嗜好を聞いたりして、その違いを生かしたメニューや調理方法をしているので、楽しく会食することができている。訪問当日は、一緒に会食できなかったが、温かな雰囲気を感じた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食習慣を把握し、常に体力維持に向けて栄養価を考え、バランスのよい食事が摂れよう支援しています。味付けも考慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎日し、介助が必要な方に対しては職員が対応して、清潔に保つようしています。食後の歯磨きを必ず行い、すっきりとした生活が維持できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、促しにより自立に向けた支援を行っています。紙パンツ、パットなどを極力使用しない方向で介助しています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけてトイレ誘導をしている。このような自立支援を通して、紙パンツやパットなどの使用を抑え、気持ちの良い生活が送れるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課の中で適度な運動や散歩をしたり、必要とされる水分を摂取したりしながら支援を行っています。医師の指示で時には便秘薬も使用している利用者もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のニーズに合わせ、決して強要することなく、その日の体調に合わせて対応しています。入浴後にバイタルの計測と水分補給を行っています。	1週間に3日ほど、利用者の希望により、入浴を楽しんでいます。車椅子を利用している利用者が多くなり、補助したり、見守ったりしている。入浴後の体調管理に十分気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの睡眠時間やベッドでの昼寝の時間を尊重し、体調に差し支えないように支援しています。ホールで昼寝する利用者もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「お薬説明書」という冊子を作り、全職員が見れるようにし、すぐ対応できるようにしています。誤薬がないよう注意し、服薬支援を行い、飲み込むまで見届けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりに役割分担してもらったり、レクリエーションや散歩などで楽しく気分転換してもらったりしています。適度の疲労感を持っていただき、夜間の睡眠につながるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせてなるべく屋外へ出る機会を増やしています。冬場は外出ができる機会が少ないため、1F～2Fの玄関先までかけ、外の様子を見たりして過ごしています。	新型コロナウイルスの感染の影響で、以前に比べて遠出する機会が減っている。玄関のベンチで日光浴を楽しんだり、裏の畑に出て散歩するようにしている。2Fでは、廊下からエレベーターホールまでの間を往復行き来し、窓から外の景色を見て散歩するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様ほぼ全員、お金の管理ができないため、所持していません。本人の希望があれば、家族様の承諾を得て、立替えて、購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては必要なものを提供し、支援しています。携帯電話を持ち込まれる利用者様もいます。他に迷惑にならないような使用をアドバイスしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔に保ち、居心地良く生活できています。電灯の交換、清掃などをこまめにし、清潔な空間となるように気配りしています。	新型コロナウイルスの感染防止の対策として、空気清浄器や加湿器を新しく設置した。また、食事をするときのためにテーブルにアクリル板を置いたり、面会するときのためにもアクリル板を通して会話できるようにしたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様それぞれに居場所があり、思い思いにゆったり生活できています。職員は、利用者様が自分の思いに浸っているのをそっと見守るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談し、できる限り使い慣れたもので環境を整え、安心して生活していただくようにしています。	使い慣れた家具を持ち込んでいる他に、グループホームから貸し出している家具や器具が多くある。ベッドや椅子、衣装ダンス、車椅子や歩行器など、利用者にとって随分助かるものばかりである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの日常生活動作を把握し、職員間で周知し、安心、安全で自立した生活を送れるように工夫しています。利用者様の動線の安全面を考慮し、自由に歩行できるようになっています。		